


園芸学会 中四国支部大会研究発表要旨 原稿作成要領

以下の参考例や次ページの作成要領を参考にして、要旨原稿を作成してください。

参考例で使用しているテンプレートが中四国支部のホームページからダウンロード出来ます。 <http://goo.gl/42Xc5W>

【要旨原稿作成 参考例】

赤 / 青文字はガイド文字で PDF や印刷には反映されません。 ツールバーの  をクリックすると表示されます。 タイトル・著者名などの枠線は「表のグリッド線を表示」で表示されます。

原稿を書く前に必ず作成要領を読み、作成例を参照してください。

1.5cm もしくは
全角 6 文字スペース

3.0cm もしくは
全角 12 文字スペース

左詰め

* 題名	アマ科異形花型自家不和合性植物における形質転換系の開発
著者(所属)	○牛島幸一郎 ¹ ・藤田弥恵子 ² ・河本千遥 ² ・久保康隆 ¹ ・中野龍平 ¹ (¹ 岡山大学院環境生命科学研究科, ² 岡山大農学部)
Title	Genetic transformation of heterostylous flax (<i>Linum grandiflorum</i>)
Author(s)	Ushijima, K., Y. Fujita, C., Kawamoto, Y. Kubo and R. Nakano

以下に本文、最大 23 行までに収めてください。フォントは MS P 明朝の 9 ポイントの使用を奨励します。

【目的】異形花型自家不和合性(HetSI)は花の形と不和合性の表現型が連鎖した現象である。古くはサクラソウなどでダーウィンが研究していた事が知られているが、今日までその制御遺伝子(S 遺伝子)は明らかになっていない。演者らはこれまでにアマ科のアマで TSS1 など有力な候補遺伝子を単離してきた。しかし、その機能は不明である。そこで本研究では、機能解明のために...

【材料および方法】ペニバナアマの播種後 2 週間の胚軸切片にアグロバクテリウム法を用いて導入した。共存培養後、MSD4×2 培地(1×MS, MES, pH5.8, 3% sucrose, 0.8% agar, 適切な植物ホルモンと抗生物質)で選抜培養し、カルス誘導やシュート形成を試みた。

【結果および考察】近縁種のアマ(*L. usitatissimum*)を含む培地で選抜培養を行った。その結果、カナマイシン耐性カルス全体が光っているものだけでなく、カメラ状に光るカルスも観察された。これは、カルス中に GFP が発現していることを示している。また、カルス中に IAA と BA を含む培地でシュートが形成された。その結果、90 の胚軸切片から 20 のカルスが得られた(表1)。このカルス全体が光っているものだけでなく、カメラ状に光るカルスも観察された。これは、カルス中に GFP が発現していることを示している。また、カルス中に IAA と BA を含む培地で高いシュート再生率が得られた。その結果、90 の胚軸切片から 7 系統のカルスが得られた。その結果、すべての区で発根が観察され、IBA 1.5 mg/L を含む培地が最も効率が良かった。また、ホルモンの濃度によって、カルスの発根率が高くなる傾向が観察された。その結果、すべての区で発根が観察され、IBA 1.5 mg/L を含む培地が最も効率が良かった。また、ホルモンの濃度によって、カルスの発根率が高くなる傾向が観察された。

【結論】アマ科の自家不和合性(HetSI)は、カルス中に IAA と BA を含む培地で高いシュート再生率が得られた。その結果、90 の胚軸切片から 7 系統のカルスが得られた。その結果、すべての区で発根が観察され、IBA 1.5 mg/L を含む培地が最も効率が良かった。また、ホルモンの濃度によって、カルスの発根率が高くなる傾向が観察された。

右詰め

青文字と枠線は PDF 化(印刷)すると消えます。

テンプレートにはサンプルが書き込まれているので、上書きしてください

本文は必ず 21 行 以内に収めてください。明朝系フォントを使用してください。「9 ポイントの MS P 明朝フォント」の使用を奨励します。句読点は [、]、[.、] のどちらでもかまいませんが、統一してください。

本文の枠は上に縮める、下に伸ばす、どちらをしてもかまいません。ただし、必ず 21 行以内は守ってください。

表 1 形質転換効率

胚軸	カルス		シュート
	GFP有	無蛍光	
90	12	8	7

表 2 ホルモンのシュート再生への影響

NAA BA	TDZ	Zeatin	IAA Zeatin
0/12	3/12	6/12	6/12

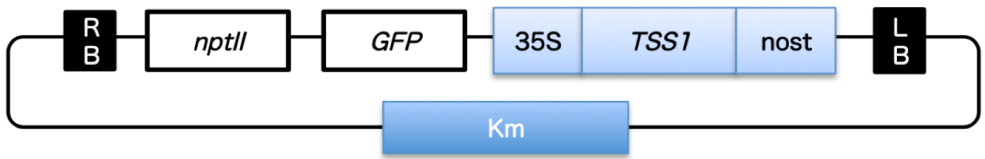


図 1 使用したコンストラクト
TSS1は35Sプロモータで発現している。

図はカラーで作成してもかまいませんが、要旨集では白黒で印刷されます。カラーで提出の場合は白黒印刷でも問題ないことを投稿前にご確認ください。

A4 用紙 1 枚

原稿作成要領詳細

A. 発表者の資格等

1. 代表発表者および口頭発表者は本支部の会員に限る。
2. 大会で口頭発表できる課題数には制限を設けない。

B. 原稿の投稿とフォーマット

支部会要旨集に加え園芸学雑誌別冊に本文を掲載するため、以下の2つのファイルを用意し e-mail にて事務局の要旨受付専用アドレス (2014chushikoku@cc.okayama-u.ac.jp) に送付する。

1. PDF ファイル(支部会要旨集掲載)

前頁の【原稿作成例】や「C. 発表原稿の体裁」に従い MS Word で作成した原稿ファイルをもとに PDF ファイルを作成する。PDF ファイルは全フォントの埋め込みと画像を圧縮しない園芸学会(全国大会)の方式が好ましい。Word の PDF 機能や他のソフトウェアで作成した PDF ファイルでも受け付ける。

図にカラーを使用したファイルでも受け付けるが、要旨集では白黒で印刷されることに留意する。

著者は投稿前に PDF ファイルが意図したとおりに印刷されることを確認する。

2. Word ファイル(園芸学雑誌別冊掲載)

PDF ファイルを作成した Word ファイルから図表を除いたものを園芸学雑誌別冊用原稿として同時に投稿する。図表の有無以外は PDF のものと相違があってはならない。

C. 原稿の体裁

原稿は MS-Wordを使用して作成するが、表題などの体裁が整うようにした[テンプレートを支部会ホームページ上にアップしている](http://goo.gl/42Xc5W) (http://goo.gl/42Xc5W) ので適宜利用する。

1. フォーマット

- ・ 発表要旨原稿は図表等を含め A4 版1枚とする。
- ・ 原稿作成には MS-Word (2007 以降を推奨) を用い、上下 3cm, 左右 2cm のマージンをとる。
- ・ 文字は明朝体フォントで 9 ポイントのサイズを使用する。日本語の場合「MS P 明朝」の使用を推奨する。
- ・ 冒頭に日本語の表題、発表者名および機関名と英語の表題および発表者名(記載方法については参考2を参照)を記載した後、1 行空けて本文を記載する。最後に図表を掲載する。特に図表の数に制限は設けない。
- ・ 本文は必ず **21 行**以内に収める。
- ・ 本文は原則として日本語で、図表は日本語または英語で記入する。ただし、留学生等、日本語による記載が困難な場合に限り英語による本文の記載も可とする。
- ・ 表題から本文までの部分は園芸学会雑誌別冊に掲載されるので明瞭な原稿の作成に努める。

2. 表題, 発表者名, 機関名の順番

- ・ 本文の言語にかかわらず以下の順番で記載する。
1行目 日本語表題, 2行目 日本語の著者名と所属, 3行目 英語表題, 4行目 英語の著者名
- ・ 著者名と所属が長い場合は、改行し複数行にしてもかまわない。
- ・ 9 ポイントのフォントを用い、斜体・上付き・下付き以外の文字の修飾は使用しない。

3. 表題

- ・ 長短にかかわらず必ず **1.5 cm** (マージンを含まない)もしくは**6文字分のスペース**を空けて書き始める。テンプレートでは 1.5cm スペースが空くようになっている。
- ・ **左詰めとする(センターリングしない)**。
- ・ 英語の場合、大文字は、表題の先頭文字、固有名詞、学名の頭文字及び慣例上必要なものだけに用い、他はすべて小文字を用いる。

4. 発表者名と所属（日本語）

- ・発表者名を先頭にし、続けて機関名をカッコを付けて**右詰め**で書く
 - ・発表者が複数の場合、口頭発表者名の左肩には肩付き記号「[○]」を付す。
- ・機関名が異なる場合は、該当する発表者の右肩および機関名の左肩に同一番号を肩付き数字で書く。
- ・複数の発表者名及び機関名が複数ある場合は、「・」（なかくてん）でつなぐ。
- ・発表者名と機関名が長い場合は、左端が3 cm(もしくは12文字目)を左に超えないようにする。必要に応じて改行する。
- ・発表者の中で、機関名の変更が生じている場合は、その発表者名の右肩に「*」を付し、その者の現機関名の左肩に「*」をそれぞれ付す。機関名の変更が複数生じている場合は、「*」、「* *」などとして区別する。

5. 発表者名（英語）

- ・右詰で書く
- ・姓と名前の順序は、筆頭者のみが姓を先に書く。発表者が複数の場合、二番目からは名前を先にする。名前は特別な場合を除き、頭文字のみとする。
- ・発表者が複数の場合、「,」（カンマ）でつなぐ。ただし、英語の場合、最後の発表者の前は「and」とする。

6. 本文、図表の記入方法及び用語の使用法

- ・本文は発表者名から1行あけ、冒頭は1字空けて書き始める。
- ・【目的】や【材料および方法】などの項目に分ける事が望ましい。項目は発表者が自由に設定できる。
- ・図表は園芸学研究論文原稿作成要領に準じ、日本語または英語で作成する。
- ・用語は‘園芸学用語集’に従い、これにない場合は部門ごとの‘文部科学省 学術用語集’あるいは各学会の公定用語に従う。
- ・動植物名は‘園芸学用語集・作物名編’（園芸学会編）に従い、カタカナ書きとする。

《参考》 機関名の省略法

- (1) 機関名は表を参考に記載。また、試験研究機関などの遠隔組織のうち所属地の明記を希望する場合は、機関名(省略形)に引き続き所在地名を括弧つきで記載する。

例：農研機構果樹研(安芸津)

- (2) その他：農業改良普及センター→農改センター，農業大学校→農大，農業高校→農高，農業技術センター→農技センター，経済農業協同組合連合会→経済連など、判読可能な範囲内での省略を行う。

機 関 名	省 略 形
教育研究機関	例
〇〇大学△△学部	〇〇大△△学部
〇〇大学大学院△△研究科	〇〇大院△△研究科
〇〇県立大学	〇〇県大
〇〇短期大学	〇〇短大
試験場(独立行政法人)	例
(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 近畿中国四国農業研究センター	農研機構果樹研 農研機構近畿中国四国農研
試験場(公立)	
・ 県名は「県」のみ省略する	
・ 以下の単語については記載のとおり省略する。 「試験場」→「試」，「研究所」→「研」，「研究センター」→「研セ」， 「センター」→「セ」，「農業」→「農」，「園芸」→「園」，「技術」→「技」 「工業(業)」→「工」，「総合」→「総」，	
(例)鳥取県園芸試験場 → 鳥取園試，山口県大島柑きつ試験場 → 山口大島柑きつ試 高知県農業技術センター → 高知農技セ	